

# 地球科学輻合ゼミナール

(2012年度 前期 第11回)のご案内

次世代日本沿岸監視予測システムの構築に向けて  
-日本近海2kmモデルと潮汐スキームの開発

坂本 圭

気象研究所海洋研究部研究官

気象庁では、外洋の黒潮、親潮や中規模渦を主な対象とした海況監視・予報を行っているが、用いている海洋モデルの水平解像度(約10km)の制約もあり沿岸海域はカバーされない。そこで、沿岸防災や沿岸海況の監視・予測の高度化を目的とした「次世代日本沿岸監視予測システム」が計画されており、気象研究所ではその基盤となる日本近海モデルの開発を行なっている。このモデルでは水平解像度を約2kmと5倍に高解像度化し、10kmスケールの日本沿岸の地形や海洋現象を表現する。また、底層混合など沿岸域で重要な様々な物理過程スキームも新たに組み込み、なかでも、沿岸海況の再現に不可欠な潮汐については精度の良いスキームを独自に開発した。発表では、日本近海モデルの概要に加えて、新しい潮汐スキームも詳しく紹介する。

7月4日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室